

開会挨拶

司会： どうも皆様おはようございます。本日はお暑いなか多数お集まりいただきましてどうもありがとうございます。ただいまより2013年度第2回国内シンポジウム「アジア仏教の現在Ⅴ 日本仏教に未来はあるか」を開催させていただきます。このシンポジウムは本学の龍谷大学アジア仏教文化研究センターが行っております国内シンポジウムの一環でございます。アジア仏教文化研究センターにつきましては、また後ほど桂先生よりご説明があるかと思えます。

本日は10時から18時までという長丁場でございますが、全国各地から、あるいは海外からも貴重なご報告をいただきまして、これまでの仏教界にはある意味ない、非常に歴史的なシンポジウムになると思えますので、どうぞ最後までよろしく願いいたします。

それでは、まずは開会の挨拶及び趣旨説明につきまして、本学文学部教授、アジア仏教文化研究センターのセンター長であります桂紹隆先生よりご挨拶いただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

桂： 皆さん、おはようございます。朝早くからたくさんお集まりいただきまして感激しております。このアジア仏教文化研究センターができて、もう今年が4年目です。3年半たちましたが、この間、アジア各地の仏教の歴史と現状、特に現在アジア各地でどういうふうに関が行われているかということを知りました。

このプロジェクトが始まる時に、メンバーの一人である佐藤智水先生から「現代インド仏教は元気があるぞ」と言われたことを思い出します。5年前に、アンベードカルの後継者であり、現代インドのダリット仏教徒のリーダーである佐々井秀嶺師がおいでになりまして、この場で大熱弁を振るわれたのをいま思い出しております。そもそも独立インドの新しい憲法を作ったアンベードカルという人物が、カースト制度から脱出する為に仏教に改宗したということなど全く知らなかった私ですが、現代インド仏教のことを知るようになり、東南アジア諸国の、あるいはインドネシア、韓国、台湾、中国、チベット、ブータンなど、アジア諸国の仏教の現状を知りました。

その間、いつも我々が考えていたのは、いまの日本の仏教はどうなんだということです。このことに関しましては、ちょうど1年前になりますが、アメリカの文化人類学者でマーク・ロウという人が来て、話をしてくれました。彼は日本にいた一年間に二百何十人もの大小さまざまなお寺の住職にインタビューした結果の一部を報告してくれたのです。彼の話聞いて日本の仏教は確かにいろいろな問題を抱えているが、その未来には何かあるのではないかと感じたのでございます。

今年になりまして、やはりインドのダリット仏教徒の指導者として活動しておられます、

イギリス人のローカミトラさんという方に話に来て頂いたことがございます。そのとき気づいたことですが、彼は浄土真宗の輪袈裟か門徒式章のようなものを首にかけているのです。それで、どうしてかと聞いたことがあります。彼の先生はサンガラクシタというイギリス人で、第二次大戦後インドで仏教に出会い、アンベードカル死後はナグプルで一時期ダリット仏教徒の指導者でもあった方ですが、帰国後イギリスを拠点に西洋社会に向けて仏教の布教活動をしてこられた方です。その人は、おそらくテラワダの仏教からスタートしたのですが、大乘仏教の考え方や実践も取り入れたので、浄土真宗みたいな輪袈裟をかけているのだと、正確ではないかもしれませんが、そんな説明をしてくれたことがありました。

彼の残した言葉で一番印象的だったのは、自分たちの仏教はNon-monastic Buddhismだという言葉です。出家主義ではない仏教を追求し実践しているということです。今の日本の仏教を考えますと、形式はともあれ、実質的には、厳しく戒律を守って生活する出家修行者がほとんどいない仏教というのが、日本の仏教の現状だと私は思います。戦後ずっと日本の仏教は葬式仏教だとか、寺院仏教だとか、いろんなかたちで批判されてきたのですが、実質的に出家主義を放棄した日本仏教にこそ、現代社会において果たすべき役割があるかもしれない、と感じたことでありました。マーク・ロウの話したことと、それからローカミトラ師に出会ったことから、日本仏教の未来に何かあるのではないかと私は思うようになりました。

本日は、日本天台宗の伝統で育てられ、母国インドでダリット仏教徒の指導者として活躍しておられるサンガラトナ師と、日本の代表的な宗門大学の素晴らしい先生方に来ていただいて、日本仏教の現状と未来について、それぞれの思うところを話して頂きます。そこから多くのことを学んで、私たちアジア仏教文化研究センターのメンバーも、日本仏教の未来について今後考えていきたいと思っております。

どうかよろしく願いいたします。聴衆の方もたくさん来ていただきまして、ありがとうございます。何か質問がありましたら、書き込む用紙をお配りしておりますので、ぜひとも質問なりご意見をお書きください。本日はどうもありがとうございました。